

事業所名

鳥取県立皆成学園

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025 年

2 月

27 日

法人（事業所）理念

私たちは、ノーマライゼーションの理念に基づき、入所利用児童等とご家族一人ひとりの人権を尊重した施設運営を行います。

- ・入所利用児童等一人ひとりが心身ともに安定し主体的な生活を送ることを目指して、それぞれの目的や目標に沿った質の高いサービスを提供します。
- ・社会参加を促進し、入所利用児童等が地域の一員として尊重され、地域社会の中でも主体的な生活を送れるよう、豊かで多様な経験を提供します。
- ・すべての障がいのある児童等の福祉向上を目指し、地域社会に開かれた施設としての機能を発揮するよう努めます。

支援方針

- ・サービス提供並びに運営は、児童の最善の利益を基準として実施します。
- ・利用児童等が安全で安心できる環境の中で児童の主体性を尊重し、かつ特性に応じた専門的支援を行います。
- ・入所利用児童等やご家族、地域の方々や関係機関の声に耳を傾け、将来の地域生活において一人ひとりがその人らしい生活を送れるよう総合的な支援を行います。
- ・県民の障がい児・者福祉思想の啓発に努め、施設の持つ専門的な知識や技術を活かし、在宅で生活している障がい児・者へ専門的な支援を提供します。
- ・発達障がい児・者及びその家族に対して相談支援を行うとともに、医療機関等と連携しながら、発達支援、就労支援を行います。

営業時間

火・水・木	9 時	30 分	11 時	分
火・木	14 時	分	15 時	30 分

利用定員

10人/日
(1回につき5人までとする)

送迎実施の有無

なし

支援内容

健康・生活

○生活リズムを安定させ、お子様同士の関係を深めるために、曜日とメンバーを固定したグループで活動を実施しています。

- ・担当職員がお子様やご家族の体調、最近の様子を聞き取ります。職員間で情報共有し、お子様の体調に合わせて活動量を調節します。
- ・初めての人や場所に不安を感じるお子様にも安心していただけるように、写真や絵カードを使って「誰と」「どこで」「いつまで」「何をやる」のかを、わかりやすくおしらせしています。
- ・活動ごとに部屋を分け、お子様にとって「どこで」「何をやる」のかをわかりやすく設定しています。
- ・カバンや上着を掛ける、トイレに行く、おやつの前に手を洗う、玩具を片付けるといった場面で、お子様が取り組みやすくなるよう支援し、自立的な行動を促します。
- ・お子様の興味関心を広げ、遊びの選択肢を増やす等、ご家庭での余暇の過ごし方につながる支援をしています。

運動・感覚

○運動遊びや指先を使う課題を通して、楽しみながら身体を使う機会を提供します。また、ご家族からの聞き取りや評価ツールを用いて、お子様の感覚面の特徴を把握します。

- ・揺れ遊具やサーキットで軽い運動を行います。個別学習では、スプーンや箸、筆記具を使う課題や、紐通し、ボタンの操作等の指先を使う課題を行います。全身や指先の使い方を学ぶことで、着席できる時間が長くなったり、道具を上手に使えるようになっていきます。
- ・姿勢が崩れやすく活動に集中しにくい場合は、足台や滑り止めシート等を使って、お子様が楽に姿勢を保てるよう支援します。
- ・感覚過敏や感覚の鈍さから、集中力やコミュニケーション面で困り感を抱えるお子様もいます。評価ツールを用いて、どんな刺激（視覚、音、におい、触覚、温度等）があると集中しにくいかをご家族と共有します。
- ・苦手な刺激を減らしたり、好きな刺激にこだわりすぎないよう、活動に集中しやすい環境を整えます。

本人支援

認知・行動

○お子様の「わかった!」「できた!」「またやってみよう!」という体験につながるよう、お子様一人ひとりに合った課題を設定し、スモールステップで取り組んでいます。

- ・複数の評価ツールを活用して、お子様の得意なことや苦手なことを把握し、ご家族と共有します。
- ・出席カレンダーのシール貼りや、タイムタイマーを使った終了時間のおしらせは、日にちや時間感覚の理解につながります。「いつ」や「あとどれくらい」という見通しを伝え、次の活動に切り替えられるよう支援します。
- ・活動の流れを示した「スケジュール」や、自立的に課題に取り組むための「ワークシステム」を取り入れています。「何をやるか」や「どうなったら終わりか」が見てわかることで、お子様が自立的に行動できるよう工夫しています。また、事前におしらせをすることにより、予定の変更等を受け入れられる力を育てます。
- ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）では、お子様が自分自身の気持ちや相手の気持ちを理解し、その場に応じた振る舞いができるよう練習します。職員と一緒に、「〇〇さんはどんな気持ち?」「こんな時はどうする?」と対話し、認知の偏りに配慮しながら相手とうまく関わられるよう支援します。

	言語 コミュニケーション	<p>○自分の気持ちを適切に表現する方法や、相手の話を聞こうとする意欲や態度を身に付けられるよう、コミュニケーションの練習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子様からの自発的な表現を増やしたり、お子様にとって理解しやすい方法を取り入れ、相手とやりとりしやすくなるよう支援します。(写真や絵カードの使用、端的で具体的な言葉、動作を交えてのやり取り等) ・お子様の特性や興味関心に合わせて、読み聞かせや歌遊び、クイズ等の活動を取り入れています。楽しく参加できるよう工夫しながら、相手に注目することや話を聞く力を育み、言葉の獲得や応答する力を伸ばせるよう支援します。 ・個別学習等の場面で、お子様の発達、特性に応じた読み書きの練習にも取り組んでいます。 	
	人間関係 社会性	<p>○心地良い人間関係を築いたり、相手との関わりの中で必要なルールやマナーを身に付けたりできるよう支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子様の発達や興味関心に合わせた小集団活動を通して、場に応じた振る舞いや相手とやりとりする力を伸ばします。 ・順番やルールのある活動や役割のある遊びの中で、職員が仲立ちとなり、場面毎に具体的に助言をしながら、相手との関わり方を少しずつ身に付けたり、ルールを守ったりできるよう支援しています。 ・個別学習の中で学んだSST（ソーシャルスキルトレーニング）を小集団活動の場面で実践し、お子様との振り返りを通して、適切な行動が増えるよう支援します。 	
	家族支援	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様やご家族が安心して就園や就学を迎えられるように、在籍園と連携して移行支援を行います。 ・就学の流れを学ぶ勉強会を実施しています。 ・お子様の特性や支援方法を就学先に伝えるため、ご希望に応じて移行支援会議に出席します。 ・就学後1年間はフォローアップとして、個別相談や支援会議の出席に応じます。
	地域支援・地域連携	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修、外部研修への参加 ・療育専門医や発達障がい者支援センター「エール」等からの助言
	<p>主な行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の集い（年2回） ・中部療育園医師によるコンサルテーション（年1回） ・発達障がい者支援センター「エール」によるコンサルテーション 		